

9. 循環器系の疾患

文献

河瀬美之、石神龍代、堀茂、ら. 高血圧に対する足三里穴刺鍼の有効性について-封筒法による臨床比較試験- 全日本鍼灸学会雑誌 2000; 50: 185-189. 医中誌 Web ID: 2000218637

1. 目的

足三里穴刺鍼の降圧効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (封筒法) (RCT-envelope)

3. セッティング

10 治療院の多施設臨床試験、日本

4. 参加者

米国高血圧合同委員会の高血圧基準を 3 回の測定結果がいずれも満たした 24 名。

5. 介入

Arm 1: 太極療法+標治法+足三里 (ST36) 群 (12 名)

Arm 2: 太極療法+標治法群 (12 名)

週 1 回以上、期間中最低 8 回以上

6. 主なアウトカム評価項目

拡張期および収縮期血圧

7. 主な結果

24 名の参加者のうち、拡張期血圧 90mmHg 以上、収縮期血圧 120mmHg 以上の 14 例のみが報告されている。その結果、群内比較により収縮期血圧では Arm2 のみに有意な変動を認めた ($P < 0.01$, ANOVA)。また拡張期血圧では両群ともに有意な変動を認めた。しかし、群間に有意差は無かった。

8. 結論

高血圧患者の血圧に対する足三里穴の降圧効果はない。

9. 鍼灸学的言及

両群とも太極療法と標治法を行った上で、高血圧に対する足三里への一穴刺激を加えたが、その臨床的な意義は明らかに出来なかった。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

本研究は 10 鍼灸治療施設によって行われた多施設臨床試験として意義のある試みである。しかし、全体の参加者が 24 名であり、それぞれの施設ごとに割り付けたことには問題がある。さらに、高血圧に対する足三里穴への鍼の効果の検討が目的にもかかわらず、両群の患者に太極療法として 13 経穴、さらに標治法も行なった上で、試験群のみに足三里穴への単刺術を加えるというデザインの適切性には大いに疑問が残る。その結果、両群の血圧の低下傾向に若干の違いが認められるが群間には有意差がなかった。それは参加者数が少ないため第二種の過誤である可能性は否定できない。また、24 名の内 10 名の結果が報告されておらず、また 3 カ月後の測定結果もないのは残念である。我が国における鍼灸治療院における臨床試験のあり方について一石を投じた報告であり、今後のさらなる検討が望まれる。

12. Abstractor

川喜田健司 2011.9.9